

NEWS RELEASE

2014年4月21日

報道関係各位

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
株式会社アイ・エム・ジェイ

リヴァー・フェニックスの幻の遺作「ダーク・ブラッド」公開記念

リヴァーと幻のツーショット写真が撮れるバーチャルフォト企画

4月19日(土)～5月9日(金) 代官山蔦屋書店2階映像フロアで展開中

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(以下、CCC)の映画・音楽等の著作権事業部門であるカルチュア・パブリッシャーズが提供する4月26日(土)公開のリヴァー・フェニックスの幻の遺作『ダーク・ブラッド』

(<http://www.dark-blood.com/>)にて、CCCグループでデジタルマーケティング事業を手がける株式会社アイ・エム・ジェイ(以下、IMJ)(<http://www.imjp.co.jp/>)が、Microsoft Kinect(※)を利用したバーチャルフォト企画「リヴァー・フェニックスと一緒に写真を撮ろうキャンペーン」を4月19日(土)から5月9日(金)まで、代官山 蔦屋書店にて実施いたします。

※ Microsoft Kinectとは、マイクロソフト社が提供するMicrosoft windows向けデバイス。コントローラなどを使用せずに、モーションセンサーによって身体の動きや音声でコンピューターの操作を行う「ナチュラルユーザーインターフェイス(NUI)」によって直感的な操作ができるシステム



映画『ダーク・ブラッド』の主演は、23歳の若さでこの世を去ってから、その類い稀なる才能で今なお世界中を魅了し続けている俳優、リヴァー・フェニックス。

人気絶頂の最中にいた彼が、薬物中毒によりハリウッドの路上で倒れたのは1993年10月31日。時代を象徴する青春スターのあまりにも早すぎる死は、全世界の人々に大きな悲しみと衝撃を与えました。この悲劇により、

撮影途中だった映画『ダーク・ブラッド』は、主役不在での完成は不可能とされ、長い間お蔵入りとなっていました。2007年末に大病を患い余命わずかだと宣告されたジョルジュ・シュルイツァー監督は、キャリア最後の作品として本作の再開を決意。監督自らが大事に保管していたフィルムの権利問題や未撮影シーンの再現など、さまざまな壁を乗り越えて2012年に映画は完成。ちょうどリヴァーの没後20周年を迎えた2013年、ベルリン国際映画祭ほか世界各地の映画祭で喝采を浴び、改めてリヴァーの唯一無二の存在感を現代の観客に印象づけました。

「リヴァー・フェニックスと一緒に写真を撮ろうキャンペーン」概要

開催場所：代官山 蔦屋書店 (<https://tsite.jp/daikanyama/>)

期間：2014年4月19日(土)から5月9日(金)

内容：映像フロアにてパネル展を開催し、リヴァー・フェニックス関連作品なども販売。会場に設置したバーチャルフォトでリヴァーと一緒に写真を撮ることができます。

「カルチュア・インフラ」を、つくっていくカンパニー。





【STORY】 アメリカ西部の砂漠地帯。かつて白人によって奪われ、核実験が繰り返されたその土地は、今は無人の荒野がどこまでも広がる、この世の果てのような場所だ。ある夜、車が故障して立ち往生していたハリー（ジョナサン・プライス）とバフィー（ジュディ・デイヴィス）の夫婦は、小さな光に導かれるようにして一軒の小屋に辿り着く。そこには、ネイティブ・アメリカンの血を引いた青年ボーイ（リヴァー・フェニックス）が、妻を白血病で亡くして以来、社会との関係を断ってたった一人で暮らしていた。もうすぐ世界の終わりが来ると信じている彼は、美しい

バフィーを一目見て生きる本能を目覚めさせていき、バフィーもまたボーイの妖しく不思議な精神世界に惹かれていく。一方、俗世そのもののようなハリーはボーイと事ある毎に衝突する。灼熱の大地で、三人の関係は次第に緊迫の度を深めてくのだが…

『**ダーク・ブラッド**』 4月26日（土）ユーロスペースほか全国順次ロードショー

監督：ジョルジュ・シュルイツァー

出演：リヴァー・フェニックス、ジョナサン・プライス、ジュディ・デイヴィス

提供：カルチュア・パブリッシャーズ 配給：マジックアワー

(C) 2013 Sluizer Films BV

本件に関する報道関係からのお問い合わせ

CCC 社長室 広報 TEL：03-6800-4491（担当：多田）

IMJ ブランド・コミュニケーション Unit TEL：03-6415-4257（担当：坂場）